

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	早稲田大学		
拠点のプログラム名称	アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学		
中核となる専攻等名	スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 彼末 一之 教授	外30名	

[拠点形成の目的]

本拠点が目指す**アクティヴ・ライフ**とは心と体の健康を指すのみならず、人々が活力をもって生きることのできる地域や社会のあり方をも含むものである。日本は長寿世界一でありながら、要介護高齢者は年々増加し、中高年者のメタボリックシンドロームが社会問題となっている。一方、子どもの心身異常も顕在化してきており、体力・運動能力の低い子どもや、対人関係や社会関係を構築できない子どもの増加などが指摘されている。このような健康問題は日本だけではなく世界共通のものとなりつつある。そして、その解決にはスポーツ（運動）が大きな可能性を持つと期待され、スポーツ振興はあらゆる世代に求められるものとなっている。UNESCOの「プンタデルエステ宣言」(1999)では、「身体活動への1ドルの投資は3ドルの医療費を削減する」と謳っている。ところが、スポーツを下支えする多くの分野において、特に科学的に高い専門性を持った人材が圧倒的に不足している。そこで、本拠点では高い専門性と幅広いスポーツ科学の知識を兼ね備えた人材育成のために、日本そして世界（とくにアジア・オセアニア地域）の教育研究拠点を形成することを目的とする。この目的の達成に向け、戦略的プロジェクトテーマとして以下の課題を設定する。

- プロジェクトⅠ: IT普及社会における子どもの体力低下抑止と健全育成促進
- プロジェクトⅡ: 医療・介護（社会保障）負担の軽減と中高年の生きがい創出
- プロジェクトⅢ: 人類幸福の実現のためのトップスポーツ興隆の方策追究

「スポーツ科学」はそれ自体が学際的・複合的な学問領域である。本拠点では単にスポーツ科学を総花的に展開するのではなく、上記の3つの戦略的プロジェクトを進行させることで、“Sport Sciences for Active Life”と呼ぶにふさわしい新学問体系を構築することを目指す。

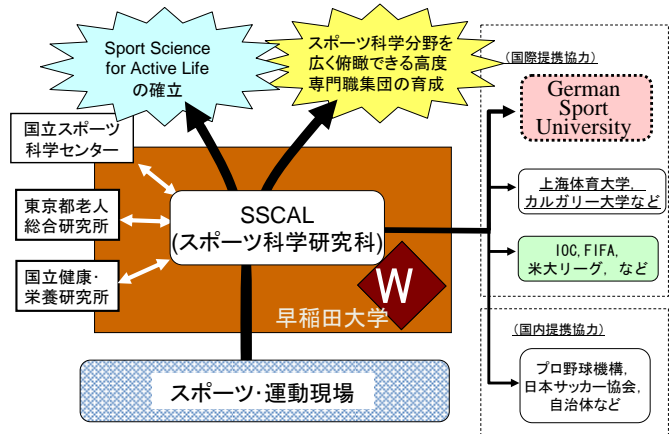
[拠点形成計画の概要]

運営体制：①国際的拠点として「Sport Science Center for Active Life (SSCAL)」を設立し、教育研究活動の中核とする。②都老人総合研究所、国立健康・栄養研究所、国立スポーツ科学センターとの提携体制を整える。③教育研究の実践経験の場として、早稲田大学附属・系属の小・中・高校、Waseda Club 2000、体育各部（OB会）、スポーツ医科学クリニックなどを有機的に組織する。

人材育成：①スポーツ科学の分野で不足している女性の教育を特に充実させる。またスポーツ経験者の博士後期課程入学を促す社会人入学プログラムを整備する。早稲田大学の持つ多くの大学間協定や海外オフィスなどの制度を利用しつつ、海外とくにアジア・オセアニアからの有能な学生の受け入れを積極的に行う。②カリキュラムでは、基礎科目・専門特論科目を系統的な講義・演習形式で先ず学ばせる。さらに優秀な学生は海外で研修し、国際的に活躍できる経験を積ませる。また「英語のみによる学位取得コース」を設ける。③成果に応じて研究費、海外派遣補助等を与える制度を整備し、学生の能力に応じて客員研究助手、RAへ採用するなど、教育研究に打ち込める体制を整える。さらに早大博士キャリアセンターや国内外の機関と協力して多様なキャリアパスを提示する。

研究活動：3つのプロジェクトでは以下のような研究を推進する。**プロジェクトⅠ**：子どものコーチング、カウンセリングならびに身体科学の知見を集積する。それに基づき、子どもの身体活動機会を拡大させる環境施策を策定し、子どもの体力低下の問題解決を国際的に先導する。**プロジェクトⅡ**：“健康長寿”の実現、即ち高齢社会における生きがい創出と医療・介護（社会保障）負担の軽減を目指して、身体活動による生活習慣病予防のエビデンスを確立し、保健指導法の開発、および社会制度の策定を行う。**プロジェクトⅢ**：社会文化的財産としてのトップアスリートの育成システムを開発する。そして競技力向上とスポーツの普及振興、市場隆盛の三者が融合するマクロモデルを構築し、その有機的連携を図るためのマネジメント理論を確立する。プロジェクト成果は英語で“Sport Science Series for Active Life”として発刊する。

海外連携：国際ネットワークを構築するために、対極拠点としてのGerman Sport Universityと提携関係を密にし、研究者、大学院生の交流を図る。さらにアジア・オセアニア地域のスポーツ科学の教育・研究拠点として4大学、さらに15の海外提携機関と交流関係を確立する。海外から長期（3年）及び短期（1ヶ月～6ヶ月）に招聘する研究者は、研究ばかりではなく高度な教育にも参加する。



機 関 名	早稲田大学
拠点のプログラム名称	アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学
<p>〔採択理由〕</p> <p>アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学を目指す教育研究拠点形成計画は社会的ニーズの高いものであり、また、将来構想が明確になっており、これまでの教育研究活動の実績も高く、計画全体が大学の特性を活かした実現性の高い優れたプログラムであると評価できる。</p> <p>人材育成面においては、トップアスリート、留学生、他分野の学生などを受け入れ、多様で質の高い人材育成に取り組んできた実績を有し、拠点形成計画の目的であるスポーツを通じたアクティヴ・ライフ創出に対応した基礎学力と応用性を培うカリキュラムや、指導体制が計画されており、特にスポーツ実践の場を提供する取組みや、女性研究者育成の取組みは高く評価できる。</p> <p>研究活動面においては、質の高い研究成果を有し、国内での国立スポーツ科学センター、国立健康・栄養研究所、東京都老人総合研究所との協力体制及びGerman Sport University等との国際的なネットワークが構築されており、研究連携の実効性についても期待できる。</p> <p>ただし、優秀な学生の確保、国際的ネットワークの充実、研究成果の社会還元については、計画の実現に向けて更なる工夫・検討が望まれる。</p>	